

平成20年5月30日
平成20年9月8日
(一部補正)

鳥取大学大学院医学系研究科
臨床心理学専攻修士課程設置計画書
(抜刷)

国立大学法人 鳥取大学

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリツダイカクジヤントトリダイカク 国立大学法人 鳥取大学								
フリガナ大学の名称	トトリダイカクイ 鳥取大学大学院 (Graduate School of Tottori University)								
大学本部の位置	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地								
大学の目的	[大学院の目的] 鳥取大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>医学系研究科臨床心理学専攻は、高い倫理観と豊かな人間性を備え、こころの問題の複雑化・多様化に対応できる臨床心理学分野の高度専門職業人を養成する。</p> <p>特に、医療・保健領域の専門家と緊密に連携・協働し、高度化する医療の要請にも対応した積極的な心理的援助ができる臨床心理士を育成する。</p> <p>本臨床心理学専攻においては、医学的環境の中で養成された技能を生かし、医学的な知識・マインドを有する人材を育成できることが、鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の特色である。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次 人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年 月 第 年次	所在地	【基礎となる学部】 なし 14条特例の実施
	医学系研究科 [Graduate School of Medical Sciences] 臨床心理学専攻 [Clinical Psychology] (修士課程) 計	2	6 6	— —	12 12	修士 (臨床心理学)	平成21年4月 第1年次	鳥取県米子市西町86番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		<ul style="list-style-type: none"> ・医学系研究科保健学専攻博士前期課程の入学定員を6人減予定。 ・平成21年度から平成29年度の9年間、医学部医学科の入学定員を5人増予定。 ・平成21年4月から医学部医学科の第2年次編入学定員(5人)設置予定。 併せて平成22年4月から医学部医学科の第3年次編入学定員を5人減予定。 ・平成21年4月、農学研究科にフィールド科学専攻修士課程、生命資源科学専攻修士課程、国際乾燥地科学専攻修士課程を設置予定。 ・平成21年4月、連合農学研究科に国際乾燥地科学専攻博士課程を設置予定。 							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学系研究科 臨床心理学専攻 (修士課程)	講義	演習	実習	計	38単位			
		26科目	2科目	3科目	31科目				

	学 部 等 の 名 称	専 任 教 員 等						兼 任 教 員
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
教 員 組 織 の 概 要	新 設 分	人	人	人	人	人	人	人
	医学系研究科 臨床心理学専攻（修士課程）	3 (3)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	6 (6)
	計	3 (3)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	6 (6)
既 設 分	地域学部 地域政策学科	6 (6)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	11 (11)
	地域教育学科	16 (16)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	30 (30)
	地域文化学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	15 (15)
	地域環境学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	1 (1)
	（学科共通）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	2 (2)
	附属芸術文化センター	4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	医学部 医学科	35 (35)	37 (37)	18 (18)	55 (55)	145 (145)	2 (2)	84 (84)
	生命科学科	6 (6)	8 (8)	0 (0)	14 (14)	28 (28)	0 (0)	11 (11)
	保健学科	17 (17)	11 (11)	7 (7)	17 (17)	52 (52)	1 (1)	46 (46)
	附属病院	3 (3)	6 (6)	36 (36)	77 (77)	122 (122)	0 (0)	0 (0)
	工学部 機械工学科	7 (7)	6 (6)	2 (2)	6 (6)	21 (21)	0 (0)	4 (4)
	知能情報工学科	8 (8)	8 (8)	0 (0)	5 (5)	21 (21)	0 (0)	5 (5)
	電気電子工学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	7 (7)
	物質工学科	7 (7)	5 (5)	1 (1)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	3 (3)
	生物応用工学科	5 (5)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	4 (4)
	土木工学科	6 (6)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
	社会開発システム工学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
	応用数理工学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	3 (3)
	（学科共通）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (1)
	ものづくり教育実践センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	農学部 生物資源環境学科	24 (24)	14 (14)	4 (4)	5 (5)	47 (47)	0 (0)	10 (10)
	獣医学科	12 (12)	11 (11)	2 (2)	6 (6)	31 (31)	0 (0)	5 (5)
	（学科共通）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (1)
	附属フィールドサイエンスセンター	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	附属菌類きのこ遺伝資源研究センター	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	附属動物病院	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	（全学共通教育）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	71 (71)
	地域学研究科（修士課程） 地域創造専攻	23 (23)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	1 (1)
	地域教育専攻	17 (17)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	6 (6)
医学系研究科（博士課程） 医学専攻	33 (33)	36 (36)	18 (18)	22 (22)	109 (109)	0 (0)	4 (4)	
（博士前期課程，博士後期課程） 生命科学専攻	4 (4)	5 (5)	0 (0)	6 (6)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
（博士前期課程，博士後期課程） 機能再生医科学専攻	7 (7)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	17 (17)	0 (0)	9 (9)	

	学部等の名称	専任教員等					兼任 教員	
		教授	准教授	講師	助教	計		助手
教 員 組 織 の 概 要	(博士前期課程) 保健学専攻	17 (17)	11 (11)	7 (7)	5 (5)	40 (40)	0 (0)	8 (8)
	(博士後期課程) 保健学専攻	12 (12)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	1 (1)
	工学研究科(博士前期課程) 機械宇宙工学専攻	11 (11)	9 (9)	3 (3)	10 (10)	23 (23)	0 (0)	2 (2)
	情報エレクトロニクス専攻	15 (15)	15 (15)	0 (0)	9 (9)	39 (39)	0 (0)	2 (2)
	応用科学・生物応用工学専攻	11 (11)	9 (9)	2 (2)	5 (5)	27 (27)	0 (0)	3 (3)
	社会基盤工学専攻	12 (12)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	32 (32)	0 (0)	3 (3)
	(博士後期課程) 機械宇宙工学専攻	11 (11)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	0 (0)
	情報エレクトロニクス専攻	15 (15)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	0 (0)
	応用科学・生物応用工学専攻	10 (10)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
	社会基盤工学専攻	12 (12)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	0 (0)
	農学研究科(修士課程) 生物生産科学専攻	23 (23)	10 (10)	4 (4)	3 (3)	40 (40)	0 (0)	4 (4)
	農林環境科学専攻	12 (12)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	0 (0)
	農業経営情報科学専攻	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	8 (8)
	連合農学研究科(博士課程) 生物生産科学専攻	32 (32)	23 (23)	1 (1)	0 (0)	56 (56)	0 (0)	0 (0)
	生物環境科学専攻	40 (40)	25 (25)	1 (1)	3 (3)	69 (69)	0 (0)	0 (0)
	生物資源科学専攻	27 (27)	14 (14)	3 (3)	1 (1)	45 (45)	0 (0)	0 (0)
	[学部等に所属しない教員組織] 乾燥地研究センター	4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
	総合ゲイ基盤センター	2 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	入学センター	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	教育センター	5 (5)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
	国際交流センター	1 (1)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	生命機能研究支援センター	1 (1)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	生涯教育総合センター	0 (0)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	産学・地域連携推進機構	2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	イノベーション科学センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	計	218 (218)	186 (186)	89 (89)	214 (214)	707 (707)	3 (3)	369 (369)
	合計	221 (221)	186 (186)	91 (91)	214 (214)	712 (712)	3 (3)	374 (374)
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	251人 (251)		0人 (0)		251人 (251)		
	技 術 職 員	740 (740)		0 (0)		740 (740)		
	図 書 館 専 門 職 員	14 (14)		0 (0)		14 (14)		
	そ の 他 の 職 員	15 (15)		0 (0)		15 (15)		
計	1,020 (1,020)		0 (0)		1,020 (1,020)			

大学全体

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	137,469㎡	0㎡	0㎡	137,469㎡				
	運動場用地	121,126㎡	0㎡	0㎡	121,126㎡				
	小 計	258,595㎡	0㎡	0㎡	258,595㎡				
	その他 合 計	1,162,762㎡	0㎡	0㎡	1,162,762㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		237,429㎡ (237,429㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	237,429㎡ (237,429㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	78室	250室	575室	4室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数	臨床心理学専攻 全体			
		医学系研究科臨床心理学専攻			7室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等 の 名 称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資 料 点	機械・器 具 点	標本 点	医学部と共用 電子ジャーナル は大学全体での 共用	
	医学系研究科 臨床心理学専攻	161,543 [90,283] (161,543 [90,283])	9,945 [8,530] (9,945 [8,530])	6,952 [6,952] (6,952 [6,952])	180 (180)	2,650 (2,650)	89 (89)		
	計	161,543 [90,283] (161,543 [90,283])	9,945 [8,530] (9,945 [8,530])	6,952 [6,952] (6,952 [6,952])	180 (180)	2,650 (2,650)	89 (89)		
図書館		面積	閲覧座席数		収納可能冊数				
		6,342㎡	490席		561,100冊				
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		2,254㎡	武道館, 陸上競技場, 野球場, テニスコート(19面), ラグビー兼サッカー場, プール, 弓道場						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年 度	開設年度	完成年度	国費による
	積 り	教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	納付金		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		-----							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	国立大学法人 鳥取大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	教育地域科学部	年	人	年次 人	人		倍	平成11年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101
	学校教育課程	4	—	—	—	—	—	平成11年	
	人間文化課程	4	—	—	—	—	—	平成11年	
	地域政策課程	4	—	—	—	—	—	平成11年	
	地域科学課程	4	—	—	—	—	—	平成11年	
	地域学部							平成16年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101
	地域政策学科	4	50	—	200	学士(地域学)	1.07	平成16年	
	地域教育学科	4	50	—	200	学士(地域学)	1.09	平成16年	
地域文化学科	4	45	—	180	学士(地域学)	1.05	平成16年		
地域環境学科	4	45	—	180	学士(地域学)	1.07	平成16年		
医学部							昭和24年	鳥取県米子市 西町86番地	
医学科	6	75	5	470	学士(医学)	1.00	昭和24年		
生命科学科	4	40	—	160	学士(生命科学)	1.06	平成2年		
保健学科	4	80	10	340	学士(看護学)	1.01	平成11年		
看護学専攻 検査技術科学専攻	4	40	5	170	学士(保健学)	1.03	平成11年		

	学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 員 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
既 設	工学部							昭和40年		
	機械工学科	4	65	—	260	学士(工学)	1.05	平成7年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	
	知能情報工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.08	平成7年		
	電気電子工学科	4	65	—	260	学士(工学)	1.11	平成7年		
	物質工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.10	平成元年		
	生物応用工学科	4	40	—	160	学士(工学)	1.09	平成元年		
	土木工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.01	平成元年		
社会開発システム工学科 応用数理工学科	4 4	60 40	— —	240 160	学士(工学) 学士(工学)	1.09 1.13	平成元年 平成7年			
農学部								昭和24年		
	生物資源環境学科 獣医学科	4 6	200 35	— —	800 210	学士(農学) 学士(獣医学)	1.05 1.09	平成11年 昭和24年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	
学 部 計			1,110	20	4,710		—			
大 学	教育学研究科 (修士課程)							平成6年		
	(学校教育専攻)	2	—	—	—	—	—	平成6年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	平成19年度から 学生募集停止
	(障害児教育専攻)	2	—	—	—	—	—	平成12年		
(教科教育専攻)	2	—	—	—	—	—	平成6年			
地 域 学 研 究 科 (修士課程)								平成19年		
	地域創造専攻	2	15	—	30	修士(地域学)	1.13	平成19年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	
	地域教育専攻	2	15	—	30	修士(教育学)	0.86	平成19年		
医 学 系 研 究 科 (博士課程)								昭和33年		
	医学専攻	4	49	—	208	博士(医学)	0.61	平成16年	鳥取県米子市 西町86番地	平成16年度から 学生募集停止
	(生理系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年		
	(病理系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年		
	(社会医学系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年		
	(内科系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年		
	(外科系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年		
	(博士前期課程)									
	生命科学専攻	2	10	—	20	修士(生命科学)	1.55	平成6年		
	機能再生医科学専攻	2	11	—	22	修士(再生医科学)	1.40	平成15年		
	保健学専攻	2	20	—	40	修士(保健学)	1.15	平成16年		
(博士後期課程)										
生命科学専攻	3	5	—	15	博士(生命科学)	0.40	平成8年			
機能再生医科学専攻	3	7	—	21	博士(再生医科学)	1.33	平成15年			
保健学専攻	3	4	—	4	博士(保健学)	1.75	平成20年			
工 学 研 究 科 (博士前期課程)								昭和49年		
	機械宇宙工学専攻	2	39	—	39	修士(工学)	1.20	平成20年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	平成20年度から 学生募集停止
	情報エレクトロニクス専攻	2	45	—	45	修士(工学)	1.24	平成20年		
	化学・生物応用工学専攻	2	30	—	30	修士(工学)	1.46	平成20年		
	社会基盤工学専攻	2	39	—	39	修士(工学)	1.05	平成20年		
	(機械工学専攻)	2	—	—	21	修士(工学)	—	平成5年		
	(知能情報工学専攻)	2	—	—	24	修士(工学)	—	平成5年		
	(電気電子工学専攻)	2	—	—	21	修士(工学)	—	平成5年		
	(物質工学専攻)	2	—	—	18	修士(工学)	—	平成5年		
	(生物応用工学専攻)	2	—	—	12	修士(工学)	—	平成5年		
	(土木工学専攻)	2	—	—	21	修士(工学)	—	平成5年		
	(社会開発システム工学専攻)	2	—	—	18	修士(工学)	—	平成5年		
	(応用数理工学専攻)	2	—	—	18	修士(工学)	—	平成11年		
	(博士後期課程)									
	機械宇宙工学専攻	3	6	—	6	博士(工学)	0.50	平成20年		
	情報エレクトロニクス専攻	3	6	—	6	博士(工学)	1.16	平成20年		
	化学・生物応用工学専攻	3	4	—	4	博士(工学)	1.25	平成20年		
	社会基盤工学専攻	3	5	—	5	博士(工学)	0.80	平成20年		
	(情報生産工学専攻)	3	—	—	26	博士(工学)	—	平成6年		
	(物質生産工学専攻)	3	—	—	6	博士(工学)	—	平成6年		
	(社会開発工学専攻)	3	—	—	10	博士(工学)	—	平成6年		
農 学 研 究 科 (修士課程)								昭和42年		
	生物生産科学専攻	2	26	—	52	修士(農学)	1.65	平成3年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	
	農林環境科学専攻	2	27	—	54	修士(農学)	0.94	平成3年		
	農業経営情報科学専攻	2	8	—	16	修士(農学)	0.37	平成3年		

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
連合農学研究科 (博士課程)							平成元年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	構成大学 鳥取大学 島根大学 山口大学
生物生産科学専攻	3	6	—	18	博士(農学)	1.05	平成元年		
生物環境科学専攻	3	7	—	21	博士(農学)	1.90	平成元年		
生物資源科学専攻	3	4	—	12	博士(農学)	2.33	平成元年		
研究科計		388	—	932		—			
附属施設の概要	名称 目的	地域学部附属芸術文化センター 鳥取という地域を主なフィールドとしつつ、開かれた地域研究の一環として、地域の芸術文化の振興、その創造と発展、継承に役立つための研究と教育を行うことを目的とする。							規模等(土地面積・建物面積)は別表のとおり
	所在地 開設年月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成16年4月							
	名称 目的	医学部附属脳幹性疾患研究施設 原因不明で異常脳波を出す疾患について、臨床と基礎の講座が直結した研究施設として脳神経疾患の予防、治療を目的とする。							
	所在地 開設年月	米子市西町36番地の1 昭和37年4月							
	名称 目的	医学部附属病院 医学部附属施設として、患者を診療し、医学の教育と研究を行うことを目的とする。							
	所在地 開設年月	米子市西町36番地の1 昭和26年3月							
	名称 目的	ものづくり教育実践センター 工学部附属の教育施設として、ものづくり教育を通じて科学技術と、ものづくりの重要性を啓発し、創造的人材の育成と併せて研究に寄与することを目的とする。							
	所在地 開設年月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成16年4月							
	名称 目的	附属電子ディスプレイ研究センター 鳥取県及び県内外の企業と連携のうえ、電子ディスプレイ等に関するコア技術の研究及び高度技術者の養成を行うことを目的とする。							
所在地 開設年月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成20年4月								
名称 目的	農学部附属動物病院 一般市民に対して動物診療を提供すると共に、獣医学の臨床教育および研究に資することを目的とする。								
所在地 開設年月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 昭和28年8月(附属家畜病院、平成16年4月改称)								
名称 目的	農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター 自然生態系の維持、植物の成長促進やストレス耐性の付与、環境汚染物質の浄化など多様な機能を持つ菌類きのこに関し、高レベルで特色のある体系的な教育と研究を進め、優秀な人材の育成と、産業の活性化や新産業の創出を目的とする。								
所在地 開設年月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成17年4月								
名称 目的	農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター 鳥インフルエンザなど社会的にインパクトの大きな鳥由来人獣共通感染症における防疫対策を確立し、国家および地方防疫に貢献することを目的とする。								
所在地 開設年月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成17年4月								
名称 目的	農学部附属フィールドサイエンスセンター 農地や森林などのフィールドを活用した研究・教育・地域貢献を实践すること、さらに農学部における総合的なフィールド科学の情報発信基地としての機能を担うことを目的とする。								
所在地	湖山農場：鳥取市湖山町南4丁目101番地 大塚農場：鳥取市大塚3-1 教育研究林湖山の森；鳥取市湖山町西4丁目110番地 " 三朝の森；鳥取県東伯郡三朝町大谷 " 伯耆の森；鳥取県西伯郡伯耆町金屋谷 " 蒜山の森；岡山県真庭市蒜山上徳山								
開設年月	昭和24年5月(附属農場、附属演習林を平成17年4月に統合)								

名 称 目 的	医学系研究科臨床心理相談センター 地域住民に対する臨床心理相談及び臨床心理に関する援助活動 並びに教育・研究を行うことを目的とする。
所 在 地 開 設 年 月	米子市西町36番地の1 平成20年4月
名 称 目 的	附属図書館 教育・研究や学習に必要な図書館資料を収集・整理して利用に 供するとともに、電子ジャーナルの導入、二次文献情報データ ベースの整理、情報リテラシ教育への参画などを通じて学内の 学術情報の流通基盤として機能し、鳥取大学における教育・研 究活動を支援することを目的とする。
所 在 地 開 設 年 月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 附属図書館医学部分館；米子市西町86番地 昭和24年5月
名 称 目 的	附属小学校 初等普通教育を施し、併せて鳥取大学の教育計画に従って、教 育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い、兼ねて 鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。
所 在 地 開 設 年 月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 昭和26年4月（改称、平成16年4月大学附属に転換）
名 称 目 的	附属中学校 中等普通教育を施し、併せて鳥取大学の教育計画に従って、教 育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い、兼ねて 鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。
所 在 地 開 設 年 月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 昭和26年4月（改称、平成16年4月大学附属に転換）
名 称 目 的	附属特別支援学校 知的障害者及び軽度発達障害者に対して小学校、中学校又は高 等学校に準ずる教育を施し、併せて特別な教育的ニーズに応じ た支援を行い、また、鳥取大学の教育計画に従って、教育の理 論及び実際に関する研究並びにその実証を行い、兼ねて鳥取大 学学生の教育実習等を行うことを目的とする。
所 在 地 開 設 年 月	鳥取市湖山町西2丁目149番地 昭和53年4月（附属養護学校を平成16年4月大学附属に転 換、平成19年4月改称）
名 称 目 的	附属幼稚園 幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長す るとともに、鳥取大学の教育計画に従って、教育の理論及び実 際に関する研究並びにその実証を行い、兼ねて鳥取大学学生の 教育実習等を行うことを目的とする。
所 在 地 開 設 年 月	鳥取市湖山町北2丁目465番地 昭和42年6月（平成16年4月大学附属に転換）
名 称 目 的	乾燥地研究センター 全国共同利用施設として、乾燥地の砂漠化防止及び開発利用に 関する基礎的研究を行い、かつ、国立大学の教員その他の者で、 この分野の研究に従事するものの利用に供することを目的とす る。
所 在 地 開 設 年 月	鳥取市浜坂1390番地 平成2年6月（農学部附属砂丘利用研究施設を転換し、設置）
名 称 目 的	総合メディア基盤センター 本学の学内共同教育研究施設として、本学の情報ネットワーク 及びセンターの電子計算機システムを管理運用し、本学におけ る研究、教育その他の業務のための共同利用に供するとともに、 情報処理の円滑かつ効率的な推進を図ることを目的とする。
所 在 地 開 設 年 月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成11年4月（総合情報処理センターを平成16年4月改組）
名 称 目 的	入学センター 本学の学内共同教育研究施設として、全学的な立場による、入 学者選抜制度の改善及び入学希望者の円滑な実施を図るととも に、本学への入学希望者に対する総合的な広報活動等及びアド ミッションポリシーに対応した学生募集を行うことを目的とす る。
所 在 地 開 設 年 月	鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成14年4月（アドミッションセンターを平成19年6月改 組）

名目	教育センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、全学的な立場による、大学教育の円滑な実施を図るとともに大学教育改善のための企画及び開発、キャリア支援等を行い大学教育及び学生支援の充実に寄与することを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	平成7年4月(大学教育総合センターを平成20年4月改組)
名目	国際交流センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、本学の国際化について企画・立案するとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	平成15年4月(留学生センターを平成16年4月改称)
名目	生命機能研究支援センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、ライフサイエンス、環境科学、ナノテクノロジー・材料等の学際的・複合的な研究領域に対応する教育研究の総合的推進を図ることを目的とする。
所在地	米子市西町86番地
開設年月	平成15年4月
名目	生涯教育総合センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、生涯教育に関する教育、研修及びこれらに関する調査研究を行い、もって地域の教育、研修の充実及び普及に寄与することを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	平成16年4月
名目	保健管理センター
称	本学における学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を行い、健康の保持増進を図ることを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	昭和44年4月
名目	産学・地域連携推進機構
称	本学における産官学連携を中心とした地域連携業務を機動的に展開するとともに、研究成果を社会に還元することを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	平成19年4月(地域共同研究センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、知的財産センターを改組)
名目	イノベーション科学センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、関係機関、企業、その他諸団体等との連携・協力の下、イノベーション教育及び技術経営教育を通じ、地域社会の中核的な人材を育成することを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	平成20年4月

(別表)

附属施設の規模等

〔鳥取地区〕

(単位:m)

名 称	土 地	建 物	
		建面積	延面積
保健管理センター	508,118 (※1)	343	343
附属図書館		1,883	4,540
地域学部 附属芸術文化センターを含む		2,970	11,241
工学部 ものづくり教育実践センターを含む		10,294	33,415
農学部 附属動物病院, 附属菌類きこ遺伝資源研究センター, 附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター, 附属フィールドサイエンスセンター(湖山農場)を含む		12,307	25,687
総合メディア基盤センター		424	840
生涯教育総合センター		274	530
産学・地域連携推進機構		1,082	2,764
共通教育棟 アドミッションセンター, 大学教育総合センター, 国際交流センターを含む		2,839	11,336
附属小学校, 附属中学校		5,421	12,534
附属特別支援学校	18,587	2,804	3,487
附属幼稚園	4,297	1,073	1,073
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林湖山の森)	(※2) 46,693	0	0
乾燥地研究センター	978,344	7,340	8,940
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(大塚農場)	56,083	413	413

〔米子地区〕

区 分	土 地	建 物	
		建面積	延面積
医学部(一) 附属図書館医学部分館を含む	36,759 (※3)	7,692	22,208
附属病院 附属脳幹性疾患研究施設を含む	52,928 (※4)	23,901	93,872
医学部(二) 生命機能研究支援センターを含む	45,113	7,103	26,031

〔その他の地区〕

区 分	土 地	建 物	
		建面積	延面積
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林三朝の森)	1,865,902	0	0
附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林伯者の森)	332,882	0	0
附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林蒜山の森)	5,787,572	1,183	1,318

※1 本部管理棟その他, 大学院連合農学研究科, 鳥取地区放射性同位元素等共同利用施設, 職員宿舎を含む。

※2 国際交流会館, 職員宿舎を含む。

※3 職員宿舎を含む。

※4 看護師宿舎を含む。

様式第2号(その2)

教育課程等の概要														
(医学系研究科臨床心理学専攻(M))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	医学概論	1前	2			○			1	2				兼8
	臨床心理学特論Ⅰ	1前	2			○			1					
	臨床心理学特論Ⅱ	1後	2			○			1					
	臨床心理面接特論Ⅰ	1前	2			○			1					
	臨床心理面接特論Ⅱ	1後	2			○			1					
	臨床心理査定演習Ⅰ	1通	2				○		2		1			
	臨床心理査定演習Ⅱ	1通	2				○		2		1			
	臨床心理基礎実習	1通	2					○	2		1			
	臨床心理実習	2通	2					○	1		1			兼1
小計(9科目)	—	18	0	0	—			3	2	2	0	0	兼9	
修士論文	臨床心理学特別研究	1・2通	8					○	3	2	2			
	小計(1科目)	—	8	0	0	—			3	2	2	0	0	
選択必修科目	※(A群)													
	臨床心理学研究法特論	1前	2			○					1			
	心理統計法特論	1前	2			○					1			
	※(B群)													
	人格心理学特論	1・2後	2			○			1					
	発達心理学特論	1・2前	2			○			1					
	※(C群)													
	人間関係学特論	1・2集	2			○					1			兼1
	家族心理学特論	1・2集	2			○								兼1
	臨床心理関連行政論	1・2後	2			○			1					
	※(D群)													
	精神医学特論	1前	2			○				1				兼5
	心身医学特論	1後	2			○				1				兼8
	発達障害心理臨床特論	1・2後	2			○			1					
	老年心理学特論	1・2後	2			○					1			
※(E群)														
学校臨床心理学特論	1・2後	2			○								兼1	
グループ・アプローチ特論	1・2前	2			○			1						
臨床心理地域援助特論	1・2集	2			○			1						
心理療法特論	1・2後	2			○								兼1	
小計(15科目)	—	0	30	0	—			3	2	2	0	0	兼17	

選択科目	基礎心理学	1前	2	○	3	2	2						
	コミュニケーションの基礎	1前	2	○									兼1
	医療と心理臨床	1・2通	1	○									兼1
	生活習慣病への介入	1・2通	1	○									兼1
	脳機能解析学	1・2通	1	○									兼1
	地域医療への取り組み	1・2通	1	○									兼1
小計(6科目)		—	0	8	0	—	3	2	2				兼5
合計(31科目)		—	26	38	0	—	3	2	2	0	0		兼26
学位又は称号	修士(臨床心理学)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係 医学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
修了要件 1. 本研究科に2年以上在学し、所定の授業科目38単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び試験に合格することとする。 2. 学位論文の審査及び最終試験は、研究科委員会で行う。 3. 選択必修科目は、A～E群の各群からそれぞれ2単位以上、合計10単位以上履修する。 4. 選択科目は、2単位以上履修する。						1学年の学期区分			2期				
						1学期の授業期間			15週				
						1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(医学系研究科臨床心理学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
必 修 科 目	医学概論	<p>(概 要)</p> <p>医学と医療についてその歴史や基礎的な知識・概念とともに、医療倫理や医療の重要なトピックスを幅広く学び、理解することで、基礎的な医学的な素養を養い、臨床心理学の知識と技術の探求に役立てることを目的とする。</p> <p>医療の様々な領域・プロセスにおいて重要な倫理問題を解説する。また医学と医療の歴史と歩みを理解し、人の発達や成長、身体の構造と機能、病理と病気による生体反応など基本的知識を学ぶ。さらに、多角的な病気の捉え方、診断と治療・リハビリテーション、予防医学などを学び、医療の全体像を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 安藤 泰至/5回)</p> <p>インフォームド・コンセントの重要性について、医療者や患者にとっての意味をふまえながら再考する。また医療倫理問題について、生殖医療、脳死などのちの始まりから終わりまでをテーマとして扱う。</p> <p>人間が経験としての「病い」として、個々人の病気の捉え方、位置づけ方を解説する。</p> <p>(9 難波 栄二/1回)</p> <p>遺伝子診断の概要と告知がもたらす問題、遺伝カウンセリングの進め方について解説する。遺伝子治療の対象となる代表的な疾患を学ぶとともに、遺伝子治療の限界も述べる。</p> <p>(10 井上 貴央/1回)</p> <p>医学・医療を発展させてきた数々の発見・成果について解説する。解剖学の貢献、動物実験による進歩、薬物療法の発展、遺伝子による解析・画像診断など最新の医学の歩みを理解する。</p> <p>(4 兼子 幸一/1回)</p> <p>身体の各部位から脳・神経までの構造と機能を学び、生体の複雑なコントロール機能などについて理解を深める。</p>	オムニバス方式/ 全15回

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
必 修 科 目	医学概論	<p>(⑤ 前垣 義弘／1回) 人間の身体的な発達、脳や身体各機能の発達や成長を概説する。様々な発達障害など、発達や成長の視点から捉えた疾患や障害を紹介する。</p> <p>(⑪ 北村 幸郷／1回) 正常な生体反応、ウイルスや外部からの侵襲に対する症状としての生体反応など、病気の原因となる物質や条件と生体反応の種類と一般的な観察・測定方法を概説する。</p> <p>(⑫ 花木 啓一／1回) 医学的診断を、患者の訴え、客観的・多面的所見、医療者の解釈、治療計画などの一つのプロセスとして捉え、それぞれの診断の要素について解説し、診断に関わる情報の整理などをまとめる。</p> <p>(⑬ 萩野 浩／1回) 薬物療法、化学療法、物理療法、手術、処置などの治療法やリハビリテーションなどの基礎的な概念を解説し、治療とリハビリテーションについての理解を深める。</p> <p>(⑭ 吉岡 伸一／1回) 疾患や障害の予防について解説する。生活習慣の改善、予防接種、健康診断、QOLの向上など一般的な予防の概念から精神疾患の予防まで幅広く理解する。</p> <p>(⑧ 大野 耕策／1回) 障害者医療における近年の変化・進歩を概観する。特に、脳神経や遺伝子などに関する先進的な研究成果を踏まえて、障害者を取り巻く環境や考え方の変化などにも触れる。</p> <p>(① 菊池 義人／1回) 医療の資格制度、健康保険・介護保険制度、高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉など、医療と保健、福祉の制度について理解を深める。</p>	オムニバス方式／ 全15回

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	臨床心理学特論Ⅰ	<p>臨床心理学的な援助についての仮説を提供する基本的な理論と方法論を総論として学ぶ。</p> <p>フロイト、スキナー、ロジャーズなど臨床心理学の先駆者がそれぞれどのようにして自由連想法、オペラント条件付け、パーソンセンタード・アプローチを見出したのか原著に当たりながら探求し、精神分析療法、行動療法、人間学的なカウンセリングの基礎理論を習得する。また、他方でクレペリン、ヤスパースに始まり、現象学的な疾患理解を経て、精神力動論的な病態水準論にいたる精神病理学の系譜も原著に当たりながらたどる。そこから、さらに、ユング心理学、システムズ・アプローチ、短期療法、表現療法、認知行動療法などを理解し、援助仮説や解釈モデルとして取り込めるように探求する。</p>	
必修科目	臨床心理学特論Ⅱ	<p>心理職としての専門性や倫理・行動規範について、様々な国内外の学会や団体等のガイドラインを学び、仮想ケースについてグループワークによって討議する。エビデンスにかかわる国際研究の流れと実際の内容、そして行動科学をベースにした支援研究における理論や基本的な技法について学ぶ。実際に行動をどのように観察・測定し、その変化や介入の効果をどのように読み取るのか、またそれらをどのようにさらなる援助に生かすのか、具体的な研究の成果や実践に触れながら、実際に援助に役立つ研究のモデルを探求する。不登校、引っ込み思案、恐怖症、発達障害、認知症などを対象にし、その支援を考える。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修 科目	臨床心理面接特論Ⅰ	<p>臨床心理面接によって対人援助を行う場合にぶつかる困難をとりあげ、それに対処するための複数の選択肢を学んでいくことをねらいとする。</p> <p>臨床心理面接の初心者が陥りやすいあやまりや、クライアントに対するかかわり方の基本について紹介し、議論を通じて理解を深める。セラピストとしてクライアントのもつ困難にどのように援助をしていくか、そしてその際のセラピストとクライアントとの協働作業のなかで、セラピストとして心得ておかねばならない守秘義務や周囲との関係の持ち方などについて学ぶ。</p>	
必修 科目	臨床心理面接特論Ⅱ	<p>臨床心理面接の様々な臨床実践場面への応用力を養うことを目的とする。一つは、さまざまな技法を習得し、対象者に合わせた援助仮説・援助プランの策定と援助技法の選択ができるようになること、次に選択した援助技法による援助のプロセスを予想し、対象者に合わせた援助の介入とコントロールができること、さらに心理臨床上の危機場面で特に困難を極める場面での対処能力を高め、どのようなクライアントのどのような主訴にも対応できる技能を身につけるようにする。</p> <p>特に、援助者にとっても危機場面となる問題については、テーマ学習の形で念入りに検討する。形式は、講義形式と事例検討、グループ討議、ロールプレイなどの方法で行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	臨床心理査定演習 I	<p>(概要)</p> <p>心理テストを用いた心理アセスメントについて演習形式で学ぶ。臨床心理学的な心理測定法を基礎にして、心理テストと面接から科学的で客観的なデータをいかに導き出し、またそうしたデータをいかに処理し、分析をし、またそれらを臨床心理学的な援助の「見立て」や効果判定にいかに役立てるかなどを学び、種々の方法に習熟することを目的とする。特に、臨床心理査定演習 I では、心身の発達との関連の強い知的水準や発達水準などの達成度や技能をはかる心理テストを中心に扱う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(1 菊池 義人/2回)</p> <p>人間の行動の中でも、発達や資質上の問題との関連の強い思春期の問題や非行など問題行動の深度などについて、そのアセスメントの方法や諸データの読み込み、さらにはテストバッテリーの組み方や結果のまとめ方などについて実践的に学ぶ。</p> <p>(3 井上 雅彦/20回)</p> <p>心理アセスメントの目的や倫理、実施方法等の基本的事項について概説し、主として発達に関連するアセスメントについて演習を行う。各種発達検査、知能検査、発達障害・認知症などの各種スクリーニング検査、適応尺度などのフォーマルなアセスメントの他、個人プロフィール、問題行動などに関する記録法や分析方法、行動観察法などのインフォーマルなアセスメントについても学習する。さらにロールプレイでの演習だけでなく、実際の対象に対して様々なアセスメントと解釈を行う。また、総合的な所見から考えられる支援方法について討議しアセスメントの利用についての技術と知識を深める。</p> <p>(6 竹田 伸也/8回)</p> <p>老年期についての認知機能や疾病等、高齢者の心理アセスメントを行ううえで重要な事項について概説し、神経心理学的テストについて演習を行う。演習では、知能検査、記憶検査、高次脳機能検査、認知症スクリーニング検査などを取り上げ、実施から支援計画を立てるまで学習する。一方、うつと不安など、医療現場で対象とする機会の多い状態についてアセスメントを行えるように、うつと不安、精神健康に関する心理検査を取り上げ、講義と演習を展開する。</p>	オムニバス方式/全30回

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
必 修 科 目	臨床心理査定演習Ⅱ	<p>(概 要)</p> <p>心理テストを用いた心理アセスメントについて演習形式で学ぶ。臨床心理査定演習Ⅱでは、Ⅰに引き続き、心理臨床の実践場面で利用される心理アセスメントの技術及びそれを利用した研究について、実践的に、具体的な事例、研究例をもとに学ぶ。特に、臨床心理査定演習Ⅱでは、投影法など人格特性との関連の強い諸検査の習熟を目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(1 菊池 義人／3回)</p> <p>種々の心理検査の施行法の習熟を前提に、医療・保健、福祉、教育、司法・矯正、産業などそれぞれの対象者や依頼者のニーズと心理アセスメントの種類、特質に合わせたテストバッテリーの組み方、フィードバックの仕方、所見の書き方などについて実践的に学ぶ。</p> <p>(2 最上 多美子／21回)</p> <p>代表的な質問紙法から投影法にいたる心理査定法について解説するとともに小集団相互学習によって体験的に各技法について反復訓練し、習熟させる。目的別査定、検査施行法、結果と解釈、倫理について学ぶ。そして同時に、臨床心理査定の限界と危険性についても学び、臨床心理査定法の援助的な使用について検討する。</p> <p>(7 金子 周平／6回)</p> <p>単に病気や障害、問題行動の査定に留まらず、人が自分自身を知り、発見するための心理テストや方法なども学ぶ。特にパーソナリティの見立てに関係する数種類の質問紙法と投映法について、その導入・実施方法や所見の書き方、具体的な援助への活用までを実習的に学ぶ。検査のみを目的とするのではなく、援助の中に位置づけるための応用技術まで習得できることを目的とする。</p>	オムニバス方式／全30回

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必 修 科 目	臨床心理基礎実習	<p>(概要)</p> <p>学内実習施設(臨床心理相談センター)において、心理相談および発達相談の電話受付における応答の仕方・主訴の聴取・受理面接における導入・他機関への紹介等について、またインテーク面接における応答の仕方とアセスメント・面接契約・報告の仕方・守秘義務等について、オリエンテーションおよびロールプレイングによる実習を行う。クライアントの個別面接を通して、実践的知識を深めると同時に、心理療法のテクニックの向上をはかる。実習に基づき受講者が発表し、その後全員で議論する。さらに、臨床心理士の活動するさまざまな職場を見学し、体験的な研修を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>(2 最上 多美子/15回)</p> <p>面接の初期段階、特にインテーク面接にはその後の面接のプロセスを左右する重要な要素が多く含まれている。数回のロールプレイングを通してインテーク面接について多面的、体験的に学び、クライアントとの契約、インフォームドコンセント、初期のラポールの形成、見立てと方針の検討などの重要な概念を解説する。受理会議の進め方についても解説し、導入期の基礎技能の習熟を図る。</p> <p>(3 井上 雅彦/15回)</p> <p>種々の発達障害を正確に見立てることで、その後のプロセスは大きく異なる。遊びを通して発達障害を見立てる視点、知能検査、発達検査の実施方法について実習を交えながら解説する。また親面接での生育歴の聴取とペアレントトレーニングへの導入などにも触れる。また不登校のインテーク面接に関して、発達の、情緒的な問題を視野に入れながら見立て、方針を立てるための基礎技能を解説する。さらに、児童福祉施設等の実習指導を通して、施設の役割や地域の特徴、地域援助についての学習を指導する。</p> <p>(7 金子 周平/15回)</p> <p>個人心理療法の進め方について、言語面接、遊戯療法、芸術療法に分けてその基礎技能を解説する。言語面接に関しては、抑うつ、不安、モチベーションの低いクライアントなどに応じた基本的な面接技能について実習を交えながら解説する。遊戯療法、芸術療法に関してはその象徴機能、カタルシス機能、非言語であることの意味などを具体例にそって解説し、ワークによって体験的理解を深める。</p>	オムニバス方式/ 全45回

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
必 修 科 目	臨床心理実習	<p>(概 要)</p> <p>臨床心理相談センターにおいて相談援助活動とその運営に従事する。そこで、クライアントの個別面接を通して、実践的知識を深めると同時に、心理療法のテクニックの向上をはかる。持続的な個別スーパービジョンだけでなく、ケースカンファレンスなどで討論しながら、研鑽を深める。</p> <p>一方、学内の附属病院において実習を行い、医療領域での臨床心理士の役割・仕事内容などを体験的に習得できるようにする。またその体験レポートの検討会を持つ。</p> <p>(オムニバス方式／全45回)</p> <p>(1 菊池 義人／15回)</p> <p>臨床心理相談センターの事例について、実地指導、スーパービジョン、ケースカンファレンスなどを通じて、事例の見立て、方針の決定や面接の進め方について指導する。また、附属病院等での実習指導を通して、医療におけるコ・メディカルの役割やチーム医療についての理解、援助専門家としての心構え、倫理などについても指導する。</p> <p>(6 竹田 伸也／15回)</p> <p>臨床心理相談センターの事例について、実践指導、スーパービジョン、ケースカンファレンスなどを通して、事例の見立て、方針の決定や面接の進め方について指導する。また、附属病院での実習、および実習の報告会を通して、実習での体験を振り返るとともに複数の実習体験から学び合うことを狙う。</p> <p>(26 菊池 清美／15回)</p> <p>臨床心理相談センターの事例について、面接指導を行う。心理療法だけでなく、心理アセスメントの実地指導、個別スーパービジョン、ケースカンファレンスを通じて指導する。家族の支援や家族力動、世代間の問題なども家族を交えた合同面接、平行面接、家族療法などの方法とともに指導する。</p>	オムニバス方式／ 全45回

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
修士論文	臨床心理学特別研究	<p>(概要)</p> <p>経験科学としての心理学を基礎にして、関連する医学、生命科学、保健学、人文・社会科学を踏まえ、人間の健康と福祉の増進、生涯発達、幸福の追求に貢献できる臨床心理学の確立をめざした論文指導を行う。</p> <p>(1 菊池 義人)</p> <p>心理療法など臨床心理学的な援助の基本的な性質や特徴を学ぶ。すなわち、精神分析、パーソンセンタード・アプローチ、システムズ・アプローチ、短期療法、論理療法、グループ療法、認知・行動療法をも視野に納め、これらの臨床心理学的な援助のプロセスと構造を多角的に研究する。さらに、臨床心理学的な援助が医療・保健、福祉、教育、司法・矯正、産業などの各領域において、他の援助職とどのように連携し、どのような機能を果たしていくのかを探求する課題について研究指導を行う。</p> <p>(2 最上 多美子)</p> <p>科学者－実践家モデルに基づき、臨床心理学の理論と実践の研究についての修士論文の指導にあたる。成人を対象とした臨床心理学的課題を重点的にとりあげ、国内外の研究論文による文献的な研究討議を重ねるとともに、臨床心理学的な調査・実験等を行う。臨床心理学の研究と実践における論理的思考の重要性について学ぶ。また、比較文化心理学を理論的背景として、欧米で考案された臨床心理学的概念や介入法を本邦に導入する際に留意する点についての考察を重ねる。</p> <p>(3 井上 雅彦)</p> <p>応用行動分析学を理論的基盤として「環境」と「個人」の相互作用から「行動」を捉え、様々なレベルでの「不適応状態」について、「環境」と「個人」の両方向からのアプローチについて考察し、エビデンスに基づく効果的な支援プログラムの開発研究を行う。さらにそれらの研究成果を実際の地域支援システムに組み込み、社会システムの中での有効性を実証する。知的障害、知的障害を伴う重度・重複障害、自閉症、学習障害、ADHD等の発達障害の他、不登校やいじめ・引きこもりなどの乳幼児期から成人期までの子どもや大人を対象とし、有効なアセスメントや支援プログラムを探求する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
修 士 論 文	臨床心理学特別研究	<p>(4 兼子 幸一) 情動学習に関係するシナプス可塑性の電気生理学的研究を踏まえて、精神疾患の心理的特性やその基盤の神経心理学的な基盤を探る。神経伝達物質と精神症状との関連から、精神薬理学的な研究も行い、心理的アプローチとも結びつけながら、さらに包括的な精神医学的な研究へと発展させる。</p> <p>(5 前垣 義弘) 脳の可塑性を手がかりに、神経生理学的なアプローチを通じて、小児期に受けた脳の障害を改善させる方策を見出すことを研究の目的にする。てんかん、発達障害をはじめ小児神経疾患全般について、患者や家族の心理も理解し、心身医学的に発展させる。</p> <p>(6 竹田 伸也) 応用行動分析、認知行動療法の手法を用いて、広く生涯発達に応用する。特に、高齢者の心理的な支援に重点を置き、認知症の心理査定や援助・予防を探求する。また、近年重要性が増しているヘルスポモーションについて、臨床心理学的見地から地域で応用・実践できる健康増進プログラムの開発に関する研究を行う。</p> <p>(7 金子 周平) パーソンセンタード・アプローチに基づく個人心理療法、エンカウンター・グループの実践の中から臨床心理学的な技法の探求を行う。また、交流分析、ゲシュタルト療法などを応用した援助方法の研究の効果について実証的な研究を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	※(A群) 臨床心理学研究法特論	<p>従来の心理学研究法を基礎として、臨床心理学に関する研究方法について習得することを目的とする。これにより、科学者・実践家モデルに基づく質の高い臨床研究スタイルの獲得を目指す。</p> <p>文献研究に始まり、事例研究法に代表される臨床心理学的な質的研究方法と臨床心理学的調査研究などの量的研究方法をそれぞれ学び、臨床心理検査法の作成過程、尺度構成、妥当性と信頼性の検証、さらに臨床心理学な援助技法の効果の測定など、その客観性、科学性を追及するための方法を探求する。</p>	
選択必修科目	※(A群) 心理統計法特論	<p>臨床心理学は、人間の意識や行動について実証的な研究を行う科学の一分野である。その基礎的なスキルとして心理統計法を学ぶ。</p> <p>臨床心理学的研究を進める上で、データの取り方、整理の仕方、分析の仕方、解釈の仕方などを身につけておくことは重要である。とりわけ、数値で得られたデータから結論を導くために、心理統計法に精通しておくことが不可欠となる。心理学的研究法の概要、データの数量化とその意味、記述統計法の基礎、推測統計法の基礎等について解説を行い、心理学的研究法の特徴について理解するとともに、心理統計法の基礎と推計学的検定法を学ぶ。</p>	
選択必修科目	※(B群) 人格心理学特論	<p>人格形成に影響する遺伝・文化・環境的要因にはどのようなものがあるのか。人格はどのように発達し、どのようにとらえることができるのか。人格の病理にはどのようなものがあるのかを探求する。</p> <p>人格についての理解をさらに深めるために、以下の事象について学ぶ。人が陥る心理的危機状態はさまざまあるが、そのうち人格障害、解離性同一性障害、統合失調症などを取りあげ、それぞれにみられる人格特徴や精神力動や家族関係の様相などを具体的に示しながら、健常の場合との共通性・連続性を考慮することによって、人間理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	※(B群) 発達心理学特論	<p>発達や学習についての基本的な理論と最近の研究成果を学ぶとともに、認知、感情、言語、社会性等の様々な発達領域が環境とかかわりの中でどのように関連しながら成長発達していくのか学習する。</p> <p>発達心理学においては、乳児から高齢者といった生涯発達の中で、複数の発達領域が関連し合いながら、人間が成長していく過程を理解し、それを発達支援という具体的支援に発展させていくことが重要である。</p> <p>本講義では発達に関連する最近の研究論文のトピックを取り上げ議論し、その中で様々な研究法やその特徴についても学習する。さらに不登校やいじめ、さまざまな障害、認知症や高齢者介護などへのアプローチについて、実際の発達支援研究法について学ぶ。</p>	
選択必修科目	※(C群) 人間関係学特論	<p>(概要)</p> <p>臨床心理学的援助の方法は、言語的もしくは非言語的に、主として人と人との関係を通じて行われる場合が多い。また、臨床心理学的援助の対象となることながらも親子、友人・知人関係など、対人関係に起因することが少なくない。援助対象としてもまた援助方法としても重要視されるこうした人間関係そのものを臨床心理学的な援助の中心においているのがパーソンセンタード・アプローチである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 金子 周平/10回)</p> <p>援助者としての自分を振り返ること、自分自身の感じ方・あり方について理解を深め、自分自身の成長を感じることが心理臨床の重要な局面の展開に寄与することがある。それらをセラピストの3条件、面接のプロセスとの関連で考察し、エンカウンター、フォーカシング等を通して、自分自身の成長を臨床心理実践に活かすための基礎を身につけることを目的とする。</p> <p>(21 野島 一彦/5回)</p> <p>心理療法の三大流派は、「無意識」を重視する精神分析療法、「行動」を重視する行動療法、「意識」を重視するヒューマニスティック心理学と言われる。本科目ではヒューマニスティック心理学のなかの1つであるパーソンセンタード・アプローチを学ぶ。この科目を通してパーソンセンタード・アプローチについて学ぶとともに、自己理解、他者理解、自己と他者との深くて親密な関係の形成も目指す。</p>	オムニバス方式/ 全15回

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	※(C群) 家族心理学特論	<p>乳幼児期から児童期、青年期、成人期、そして老年期とライフサイクルの視点に立って各発達段階における家族の問題を取り上げ、心理臨床の立場から検討を進めていく。</p> <p>家裁調査官として携わった数千例の非行臨床と家族臨床をもとにした子どもの問題行動と家族の紛争に対する解決アプローチを紹介する。また、それを踏まえて、現代の青少年の変化や家族関係の特性の研究、司法における臨床実践の研究なども紹介する。</p>	
選択必修科目	※(C群) 臨床心理関連行政論	<p>臨床心理に関連する行政上の諸問題について理解を深めることを目的とする。</p> <p>具体的には、臨床心理学的援助の根拠となる法令について、臨床心理士が活動する領域に応じて概観する。まず、憲法と法制度の仕組み、種々の援助資格とその法的根拠を探り、精神科医療、非行臨床、児童福祉臨床、学校臨床などでそれぞれ重要な根拠となる精神保健福祉法、少年法、児童福祉法、学校教育法など特に心理臨床と関係の深いところを中心に学び、臨床心理士の行為規範、倫理綱領などについても理解を深める。これにより、心理臨床家の実践における社会的な機能を探求し、他職種との連携に役立てる。</p>	
選択必修科目	※(D群) 精神医学特論	<p>(概要)</p> <p>臨床精神医学は、臨床心理学の近接領域であり、相互に影響を及ぼしながら発展してきた。とくに医療機関における臨床心理を志向する者には、精神医学の知識と技術は必要不可欠である。そこで、現代精神医学における精神障害の診断分類体系、精神科治療総論、代表的な精神障害の症候と経過、精神科医療に関する法律規則等、基本的な事項を解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 兼子 幸一/8回)</p> <p>精神科治療薬の種類とその推定される作用機序、副作用などについて述べる。薬物治療以外の治療法、心理・精神療法などをとりあげ、その基本原則について述べる。</p> <p>また、統合失調症の治療法、気分障害、神経症、老年期の精神障害についてその疫学、症状、成因、治療法などについて述べる。</p>	オムニバス方式/全15回

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	※(D群) 精神医学特論	<p>(8 中込 和幸/2回) 精神医学概論として医学における精神医学の占める位置を説明し、次に精神医学の簡単な歴史と現状について述べる精神医学的な面接は、症状の聴取だけでなく診断あるいは治療にも直結する重要な行為でありその技法について述べる。さらに精神科診断学の基本と代表的な検査法について概説する。</p> <p>(17 神尾 聡/2回) 精神医学の最大の課題の一つである統合失調症をとりあげ、その疫学、症状、推定されている成因などについて述べる。また、社会問題化しているアルコール依存症、覚醒剤依存などの疫学、症状、治療について述べる。中枢神経系疾患を主として身体疾患の部分症状として現れる精神症状について解説する。</p> <p>(18 岩田 正明/1回) 神経症性障害に関して、その成因、症状、治療などについて概説する。また、心理・社会的要因との関連が深いとされる拒食症・過食症などの摂食障害を取り上げ、時代的、環境的違いによる疫学の比較を行い、症状について触れたのち、生物学的、心理社会的治療について述べる。</p> <p>(19 石田 寿人/1回) 人格障害は、いまだその成因や治療法が明らかにされてはおらず、精神療法的アプローチが重要な障害とされている。本講義では、人格障害(パーソナリティ障害)の基本的概念について概説した上で、妄想性人格障害、境界性人格障害、回避性人格障害など、人格障害の下位分類について取り上げ、その特徴と治療について述べる。</p> <p>(20 玉城 国哉/1回) 日本の精神医療の現状を、行政や法律の面から検討する。同意の得られない治療は精神保健福祉法に基づいて行われる。また、刑事責任能力などについて司法上の問題が生じることもある。さらに、精神障害者が地域に住み満ち足りた生活や活動を行える為に地域で行うべき精神医療や福祉について述べる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	※(D群) 心身医学特論	<p>(概要)</p> <p>心身医学とは、患者を身体面だけではなく、心理面、社会面をも含めて総合的、統合的にみていこうとする医学である。心身関連の現象や捉え方は、すでに古代ギリシアの医学・哲学の考え方に表れているが、最近さらには遺伝子や脳の解明なども進み、ますます人間を身体的・心理的・社会的存在として理解し、体と心と社会環境の相互作用として捉える考え方が必要になっている。</p> <p>本科目においては、人間の身体と心を結び付けるものとして脳の働きに注目して、これらの点について理解することが授業のねらいである。すなわち、人間の身体と脳の仕組みのうち特に脳の発達と心身のバランスを維持する仕組みについて学ぶ。さらに、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器、運動器などの各身体の生物学的な仕組みを解説し、それぞれに対するストレスの影響と治療方法などについて解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 前垣 義弘/4回)</p> <p>大脳皮質、白質、大脳辺縁系、大脳基底核、視床、視床下部、中脳、橋、延髄、脊髄、末梢神経などの脳の構造とはたらきを解説する。そこから障害部位と高次機能障害について考察する。さらに、脳の発達とその可塑性に注目して、脳の障害の改善の道を探る。また、情動と脳とその障害について学習する。特に、てんかんを例にとり、心理的な要因との関連を探る。</p> <p>(9 大野 耕策/3回)</p> <p>脳と神経系発生の仕組みを概観し、大脳連合野と左右大脳半球の機能に関連した脳構造の異常及び発達障害とその症状などについて解説する。さらに、発達障害に絡んだ二次障害の発生メカニズムについて学習し、脳に関連したさまざまな疾患の理解に役立つ。</p> <p>(10 渡邊 達生/1回)</p> <p>環境要因によるストレスが脳機能や内分泌に及ぼす影響について解説する。すなわち、情動と脳(不安、緊張、興奮と脳活動変化)ストレス時の免疫、内分泌機能変化などについて学ぶ。</p>	オムニバス方式/ 全15回

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	※(D群) 心身医学特論	<p>(11 村脇 義和 / 1回) 消化器疾患と心の健康について解説する。胃・十二指腸潰瘍、過敏性大腸など消化器系の疾患とストレスの関係について臨床的に学習する。アルコール依存と肝障害なども理解を深める。</p> <p>(12 中島 健二 / 1回) 神経内科学的な視点から、頭痛、偏頭痛、自律神経失調症、脳卒中、パーキンソン病、アルツハイマー病など神経系疾患と心の健康について学習し、理解を深めることで、神経疾患への心理的な援助への可能性を探る。</p> <p>(13 鯉岡 直人 / 1回) 慢性呼吸不全、慢性閉塞性肺疾患など呼吸器系疾患と心の健康について解説する。呼吸器疾患そのものに伴う不安や在宅酸素療法などの治療に伴うストレスも理解し、喫煙との関係、QOLの向上と心理的援助の可能性を探る。</p> <p>(14 井川 修 / 1回) 本態性高血圧、冠動脈性疾患、不整脈害など循環器疾患と心理的な要因との関連を内科学の観点から探るだけでなく、心臓神経症（パニック障害）など特に心理的な要因が強い疾患への理解も深めることで心理的な援助の可能性を探る。</p> <p>(23 汐田 まどか / 2回) 心身医学や心身相関現象についての基礎を解説する。ストレス病としての心身症の概念と身体病、神経症、精神病の違いなどさまざまな心身症の例を検討しながら具体的に学ぶ。さらに、診断のための診察、種々の検査・評価法、予防や治療についても概観する。</p> <p>(24 河野 美江 / 1回) 更年期障害、マタニティーブルー、月経困難症など女性特有の問題について、産婦人科学と臨床心理学の両面からアプローチして有効な心理的援助に結びつける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	※(D群) 発達障害心理臨床特論	<p>発達障害への早期発見から就労支援までのライフステージに応じた対応は、現代の医療・教育・福祉にとって大きな課題となっている。本講義では、発達障害に対する概念と診断、早期支援、家族支援、学校コンサルテーション、問題行動の治療、二次障害の予防と治療、専門機関の連携など、最近の研究動向を学習する。また、集団適応が困難な自閉性障害・学習障害・注意欠陥多動性障害等の行動障害・情緒障害を有する児童生徒のアセスメントと適応行動の獲得・家族支援に関して応用行動分析学に基づいた支援技法について学習する。</p>	
	※(D群) 老年心理学特論	<p>超高齢社会を迎えた今日、高齢者に対する心理臨床の重要性は増しつつある。そのような状況において、臨床心理士としてどのような現場で働くにせよ、高齢者との関わりは避けては通れず、より良い心理臨床活動を展開する上で老年期への理解を深めておくことが望まれる。</p> <p>本講義では、老年期の心理的諸側面について、認知、記憶、情動、人格、発達課題など幅広く俯瞰し、加齢とともに成熟する英知などにみられる老年期の心理的強さや、喪失体験に代表される老年期の心理的危機について概説する。また、老年期の臨床的問題として認知症やうつ病などを取り上げ、その特徴を理解した上で、認知行動療法、回想法、動作療法など高齢者を対象とした心理的アプローチについて学ぶ。一方、認知症予防活動に焦点をあてながら、臨床心理学的地域援助の一環として、地域で高齢者に対していかなる心理的サービスを展開できるかを学習する。</p>	
	※(E群) 学校臨床心理学特論	<p>いじめ・不登校など子ども達の問題は個別にあるのではなく、学校体制・教師の力量・保護者の問題と連関して存在する。こうした学校臨床における問題について事例を通して理解し、その援助方法を学ぶ。</p> <p>特にスクールカウンセラーの役割は、クリニックモデルのように単に面接室に待機して主訴に対応するのではなく、児童生徒の現状やその学校の教職員のニーズそのものを見極めることから始まる。したがって、援助の方法も、コミュニティモデルやネットワークモデルなどが求められ、代表的な臨床心理学的地域援助の一つに数えられる。こうした点を踏まえて、求められるスクールカウンセリングとは何かを討論を通じて検討する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	※(E群) グループ・アプローチ特論	<p>精神分析と言語自由連想法的な集団精神療法, 精神力動理論と心理劇・芸術療法などの表現療法, パーソンセントード・アプローチとエンカウンター・グループ, 認知行動療法と心理教育・SSTなどの技法を取り上げ, それぞれ歴史, 特色, 援助仮説と技法, 適用などを概観する。次に, これらの代表的な技法をデモンストレーションなどにより体験し, 実践的に身につける。さらに, その応用として, グループ・アプローチの臨床的な広がり(統合失調症, うつ病, がん患者や不妊者など疾患ごとのグループ, アルコールなどのアディクション, アダルト・チルドレンやトラウマ体験者のグループ, 不登校児の親のグループ, 精神科新入院患者グループ, デイケアグループ, 社会復帰段階のグループ等)を体験的に学習する。</p>	
	※(E群) 臨床心理地域援助特論	<p>精神疾患をもつ人が各々の心理社会的なニーズを満たし, 自立した生活スキルを習得するために必要な地域援助のシステムと技法について臨床心理的な立場から学ぶ。</p> <p>統合失調症に代表される慢性精神疾患をもつ人の認知機能と社会機能の障害および, それら障害が生活上でもたらす困難について学習した上で, 主要な地域援助システムとリハビリテーションモデルについて学ぶ。自立生活において重要視される職業スキルに必要な認知機能と社会機能の改善に対して用いられる認知リハビリテーションの技法として主として認知矯正療法について学習する。注意, 集中, 記憶, 問題解決などの認知機能の障害と改善がどのように地域での生活に影響を与えるかを学習する。</p>	
	※(E群) 心理療法特論	<p>本科目では, 心理臨床の実践を重視して, 今後いかに心理療法の技法を学んでいくかという観点から解説する。</p> <p>特に, 心理療法の計画から終結までの展開について事例を通して学ぶ。事例は, 一般的なものだけでなく, やや特別な視点や対応法が要求される事例に至るまで解説する。講義内容は, インテーク, Genogramの作成, Genogramによる事例理解, 心理療法の実際, 心理療法への準備, 知識とスーパービジョンと教育分析についてなどである。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	基礎心理学	<p>(概要)</p> <p>基礎心理学における幅広い知識を身につけ、臨床心理学を学ぶ者としての心理学の基礎的な素養を高める。特に臨床心理学のベースとなるいくつかの基礎心理学の分野において、その歴史や理論、主な研究の紹介を行い、それぞれの特徴を解説する。臨床心理学の実践・研究を行う際にその知識を応用できることを視野に入れながら、心理学の基礎を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 菊池 義人/3回)</p> <p>基礎心理学の歴史を、現代心理学の始まりから振り返り、さまざまな心理学の分野の発展とアプローチの変遷を辿る。現代心理学の対象と研究の発展、臨床心理学への応用について解説し、社会心理学の基礎を理解する。</p> <p>(② 最上 多美子/2回)</p> <p>認知心理学の基礎理論について概説し、記憶、認知、問題解決、思考などのキーワードによって体系づけられてきた研究の枠組みを紹介する。過去の代表的な研究を紹介し、その内容と方法を学ぶ。</p> <p>(③ 井上 雅彦/3回)</p> <p>行動理論や行動科学の発展を、歴史背景とともに解説し、理解を深める。条件づけなどの古典的ながら重要な概念の現代的意義や応用的な活用方法を解説する。観察法やデータの収集方法、分析方法などを具体的な研究を用いながら理解していく。</p> <p>(④ 兼子 幸一/1回)</p> <p>情動や学習などの心理学的要素と生理学的反応の関係について解説し、心身相関について学ぶ。生理心理学・神経心理学的なアプローチの基本的な概念とともに、特徴的な研究について幅広く学習する。</p>	オムニバス方式/ 全15回

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
選 択 科 目	基礎心理学	<p>(⑤ 前垣 義弘／1回) 脳波, 皮膚電位, 筋電図, 脳内血流などの生理的指標と心理との関係について解説し, それぞれの測定方法について学習する。特に脳波の測定方法, 脳の機能とその発達について, いくつかの研究をレビューする中から理解していく。</p> <p>(⑥ 竹田 伸也／3回) 古典的な学習理論や社会的学習, その基礎知識と現代的意義を解説する。人の学習がいかになされていくかのメカニズムを理解する。個人の学習について, 重要な研究をあたりながらその習得を目指す。 また人の健康をテーマに, 心理学の取り組みを紹介し, その研究についても解説する。</p> <p>(⑦ 金子 周平／2回) 教育領域における重要な研究トピックについて学び, 教育心理学の基礎知識と典型的な研究を学ぶ。基礎的な心理学研究の具体例を理解しながら, 教育心理学への理解を深める。</p>	オムニバス方式／全15回

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニケーションの基礎	心理臨床を支えるのは、ホスピタリティ・マインドあふれる豊かな人間性とコミュニケーション能力である。この講義では、自分自身の生き方や今の人間関係について考えることを学び、「気づきの体験学習」を行う。また、講義と「体験学習」での気づきや学びをさらに深めるために乳幼児との交流について解説することで、「人間力」の中の共感的理解力、受容力、ホスピタリティ・マインド、持続力など育む場とする。	
	医療と心理臨床	臨床心理士が医療現場において臨床チームとして機能していくための、医療に関する倫理、脳科学の基礎について学習する。また生活習慣病や終末期ケアなど医療現場が必要とする臨床心理学的な領域について基礎的な知識を習得し、医療の中での臨床心理学の役割や連携について考察する。	
選択科目	生活習慣病への介入	生活習慣病に関する基礎知識に加え、チーム医療、グループワークなどを用いた健康教育、職域介入などのアプローチについて学ぶ。地域での具体的な取り組みや行政との連携にも触れながら全体的な理解を目指す。	
	脳機能解析学	脳機能について多角的に学ぶ。脳の血管支配や脳代謝と血流量というような脳の生理学から神経生理学、神経心理学、精神生理学まで、脳機能を測定するさまざまな方法とともに紹介する。また、統合失調症、てんかん、アルツハイマーなどの疾患について脳機能局在、脳波、脳の神経活動などの視点から解説し、精神疾患を脳機能的側面から理解する。	
	地域医療への取り組み	近年の精神医療は、従来の入院治療中心の医療から、地域で患者を支える「地域精神医療」の充実への大きな変化の渦中にある。本科目では精神障害、知的障害、重傷心身障害、高次脳機能障害などの在宅医療についての基本的知識に加え、当事者の能力や再発可能性などを考慮した支援計画について学ぶ。	